

令和 4 年度 第 2 回 新潟市子ども・子育て会議 幼保部会
会議概要

開催日時	令和 4 年 1 1 月 2 9 日 (火) 午前 1 0 時 0 0 分～午前 1 1 時 0 0 分
会 場	新潟市役所本館 6 階 第一委員会室
出席委員	小池委員 (部会長)、椎谷委員、平澤委員、斎藤委員、深海委員 (鈴木委員 欠席)
事務局等	こども未来部長、保育課長ほか同課職員 1 1 名
傍聴者	0 名
議事内容	<p>【議事】</p> <p>(1) アクションプラン第 2 期計画の「量の見込み」の見直しについて</p> <p>○事務局より、アクションプラン第 2 期計画における「量の見込み」の見直し案について説明したうえで、委員の意見を聴取しました。</p> <p>○委員からは、下記ご意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・量の見込みと確保の方策について、数式に基づいて算出された数字であるということは理解できるが、利用人数と定員でまだまだ乖離が生じているように見える。教育・保育現場の立場からすると、子どもの数がどんどん減っていくなかで、実態に応じた数字ではないように感じる。 <p>→今回は、第 2 期計画の中間見直しという形のため、基本的には今までの考え方・計算式に則り可能な範囲で修正を行うこととしている。2 年後には次の計画を立てる時期がやってくるため、その際には、より精緻に実態をつかめるような計算式がないかどうか、改めて検討したい。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2 年後にはさらに子どもの数が減っていくことが予想される。実際、各園における入園児童数はこの十数年でかなり減少しており、閉園を考えている園が増えている。各園においては、2 年間で経営ができなくなるなど、いろいろな状況変化が生じているということを考慮のうえ、計画を立ててほしい。 ・算出式に基づいて今後の予想を見込んでいるとは思いますが、その予想・予測をはるかに上回る形での少子化が進んでいる。そのため、より小刻みに見直しを行う、より短いスパンで計画をみていく必要があるのではないか。 <p>→量の見込みというの是非常に難しい面がある。しかし、予測した数</p>

値が乖離するのであれば、適宜修正をしていくべきであるため、できる枠組みの中で検討を進めていきたい。(事務局)

- ・地域子育て支援センターの利用をしたことがあるが、同世代の子どもに会う機会がほぼなかった。実績として、利用者数の把握はしていると思うが、センターを利用したかったが利用できなかった人の数がどのくらいなのかは把握しているのか。

→実際に利用をしたかったが利用を控えた人や利用ができなかった人の数は把握していない。ただし、利用したいという希望があった場合には、休館中であっても個別の対応をとったり、対面が心配な方であればオンラインの利用を勧めたりしており、利用をお断りするという事はなかったと認識している。(事務局)

- ・新型コロナウイルス感染症について、まだしばらく警戒しながら子どもたちの居場所や交流の場を運営しなければならない状況だと思う。同じ年齢の子どもたちが交わる機会は非常に大事だと思うので、そういう機会を増やしていけるよう、引き続きコロナ禍における運営方法等を探ってほしい。

(2) 市立保育園配置計画について

○今年度末で終期を迎える「新潟市立保育園配置計画」の改定に向け、事務局より、改定案の概要を説明したうえで、委員の意見を聴取しました。

○委員からは、下記ご意見がありました。

【計画の進め方等について】

- ・最終的な目標は20年後を見据えたものになっているが、少子化が予想を上回るスピードで進んでいるので、より細かいスパンで状況を見極めながら、適宜対応を図ってほしい。

→概ね20年後を見据えた長期的な計画であるが、近年の児童数の減少状況を踏まえると、計画の加速化を図っていく必要があるのではないかと考えている。そのためには、計画の更なる推進に向けた内部体制の強化が必要であるため、体制づくりを含めて加速化に向けた検討を進めていく。(事務局)

- ・市立園の閉園にあたっては、既存の園を有効活用することをまず考えてほしい。
- ・現在の主な民営化手法では、新設園がまず開設し、その数年後に市立園が閉園するというスケジュールになっているが、市立園が残ったまま新設園ができると、そのエリアの施設数が過剰になり、周辺

園の園児数が減少するなど、大きな影響を受ける。場合によっては、周辺園が閉園するということにも繋がる。

- ・そのため、市立園の閉園を検討する際は、まず周辺の既存園で市立園在園児を受け入れられるかどうかを検証し、そのうえで、受け皿が不足するのであれば新設園を誘致する、というように進めてほしい。

→大きな課題であると受け止めている。施設側・保護者側双方の立場から考えて、バランスのとれたより良い進め方ができるよう検討していきたい。(事務局)

- ・児童数の減少を踏まえ、私立園同士で地域の将来の姿を話し合い、施設数を全体的に整理していこうという議論を進めている地域もある。そのような事例を参考にしながら、必要に応じて軌道修正してほしい。

→本計画は、あくまで市立保育園を対象としたものであるが、今後、私立園を含めた市全体の保育施設等の適正化なども議論していく必要があるのでは、との課題意識は持っている。他都市の取組も研究していきたい。(事務局)

- ・保護者にとって、園はとても大事な存在。それが閉園するとなると、不安に感じる方もいると思うので、閉園にかかる保護者説明等は丁寧にしてほしい。

→保護者・地域の方々は、園に対する様々な思いをお持ちだと思うが、その思いを受け止めつつ、計画の推進により市全体の子育て施策をさらに充実していくという本計画の趣旨などを引き続き丁寧に説明していく。(事務局)

【計画改定の進め方について】

- ・市民の意見がきちんと反映されるよう、パブリックコメントを実施・機能させ、より良い内容にしてほしい。

→しっかりとパブリックコメントを実施し、市民の方々のご意見をいただきたい。(事務局)

【その他】

- ・議題（１）（２）を審議するなかで生じた共通の懸念として、このまま児童数の減少が進むと、保育園等を子どもたちが育つ環境の場として機能させ続けていくことが難しくなっていくのではないかと、ということがあると感じた。

- ・この懸念、課題に対して、どのような取組を全市的に行っていくべきか、という観点から各種施策を考えていただけると良い。

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・子ども条例も制定されたところだが、保育施設等が、単に保護者が仕事等のために子どもを預ける場ではなく、子どもの権利保障の場・育ちの場として機能していけるように、地域や社会の理解を得ながら、この計画が進められていくことを願っている。
・正職員率の向上について、保育の質の向上のためには重要な課題なので、前向きにしっかりと進めてほしい。・新潟市は、1歳児の職員配置を3：1としているが、これは高く評価されている。
・正職員率が低いのは、どのような理由からか。
→市立園数が多いことや、1歳児の職員配置を3：1と手厚くしていることなどが影響し、低い正職員率となっていると考えられる。
(事務局)
・老朽化が進んでいる市立園を閉園するとデメリットなどもあるか。
→保護者や地域の方々は、従来からある市立園に様々な思いを持っていただいているが、そのような思いに必ずしも沿わない形になることなどか。(事務局) |
|--|--|